

会 議 録

1. 会議名

第2回仙北地域協議会

2. 議題（公開・非公開の別）

（1）仙北地域振興計画の策定について（公開）

3. 開催日時

平成20年5月9日（金） 午後7時より

4. 開催場所

仙北庁舎「大会議室」

5. 傍聴人の数

0人

6. 出席したものの氏名

委 員：佐藤力哉、熊谷政子、池田佐喜男、池田武、黒澤三郎、小林千歳、
小松田有佳、佐々木忠雄、進藤勇吉、竹村正資、千葉嗣助、戸澤龍悦、
茂木保治
（委員13名の出席、欠席5名）

仙北総合支所：佐藤支所長、小西地域振興課長、熊谷地域振興課参事、
皆川同課主幹、池田同課主任

その他出席者：鈴木孝男・宮城大学助教

7. 発言内容

小西地域振興課長

【開会】

第2回仙北地域協議会の開会を宣告

佐藤会長

【会長あいさつ】

皆さん、今晚は。農繁期を迎え、そろそろ忙しくなる時期に夜遅くお集まりいただきまして、ありがとうございます。今日は、仙北振興計画策定ということです。普段の会議とは違って計画の策定についての会議です。先日、配布になりました「だいせん・今年の一手法」とい

う予算特別号を見ていましたら、各地域の地域枠予算の19年度事業計画が全部載っておりました。ほかの各地域でもいろんなことをやっていると感じたわけですが、今日の資料にも平成20年度の各地域の地域枠予算の事業計画が載っておりまして、地域によって内容が若干異なると感じたところです。うちの方の地域枠の枠が少し小さいのかなあと感じますが、各地域からいろいろな意見を取り入れまして、いろいろな事業に地域枠予算を充当していければいいのかなと思ったりしておりました。

また、今日は鈴木先生からわざわざお越し頂き、ありがとうございました。我々の地域振興計画の策定についてご協力くださるということで期待しておりますので、是非よろしくをお願いします。

小西地域振興課長

続きまして、佐藤支所長よりお願いします。

佐藤支所長

大変お疲れのところご出席いただきまして、ありがとうございます。そして、忙しい中、鈴木先生にご出席賜りまして、よろしくご指導お願いします。

本日は、振興計画策定についてご協議をお願いするわけですが、現在、大曲、神岡、中仙の3地域については振興計画を策定したところです。先日、5月7日に市長からお話がありました。地域振興計画の策定については、地域枠予算も3年目に入り具体的な計画になったということで、500万円の額が多いか、少ないかではなく、計画の内容が重要であり、総合支所全体で取組んで積極的な活動をしてほしいということでありました。

また、地域協議会の役割として、主義主張あるいは提言を出して欲しいということで、この前もお話ししましたが、10月から11月末までに21年度の市に対する提言を出していただき、その後、市長または副市長が出席いたしまして意見交換したいということでございました。そういうことで、皆様には大変ご難儀をおかけしますが、どうかよろしくをお願いします。

小西地域振興課長

それでは、大仙市域自治区の設置等に関する条例第9条第4項の規定によって会議の進行は、会長よりお願いします。

佐藤会長

会議録署名委員の指名を行います。会議録署名委員は、佐々木忠雄委員、茂木保治委員にお願いいたします。

議事に入ります。「仙北地域振興計画の策定について」皆川主幹より説明をお願いします。

皆川主幹

【仙北地域振興計画の策定について資料により説明】

佐藤会長

まずは、地域計画のスケジュールがこの案でよいかということだと思います。地域振興計画の策定作業を地域協議会でやりまして、合わせて地域づくり講座をやっていくということなので、地域協議会と地域づくり講座が月に1回ずつあるというようなことでよろしいですか。

皆川主幹

その点につきまして先ほど鈴木先生とご相談させていただいたところ、地域づくりと振興計画を同じ内容で行うと錯綜して上手くないのではないかというご指摘をいただいております。地域づくり講座では自治会の連携のあり方の内容にして振興計画とは重ならないようにしたい考えです。ただ、5回目は振興計画案を講座の中でプレゼンさせていただきたいということです。

佐藤会長

鈴木先生から何かございますか。

鈴木助教

皆川さんからお話があったとおりですが、ひとつは計画を作るというのは大変な作業なわけで、この回数で出来るかという基本的な話がありますが、結構体力がいる作業がこれからあります。今年、岩手県住田町というところに入るのですが、これも1年間10回対応です。計画を持っていてこれから実行を深めていく話合いですらそれぐらい用意しています。そういう点では数的な問題で不安なところがあります。そこらを宿題とかで対応するかという話になります。さきほど講座の打合せをしましたが、地域づくり講座をこれに連携するというお話があったのですが、そうした場合同じことを考えたりする場になる可能性もあり、その点で役割分担がなかなか出来ないという難しさを感じたものですから、それだったら自治会組織という資料4の右側の組織で、何故この組織を作らなければいけないのか、これからの自治会の在りようとか、コミュニティの在りようとか、もっと広く言うと仙北地域の協働の在り方のようなものを話合ういい機会ではなかということ、そういったものを一つテーマにすることは可能ということ、もう一つ提案したことは、ここの地域協議会でこの回数で難しいというのであればワーキング部会のような形を地域づくり講座に位置付けて、ここに広く住民の方に参加してもらって、勿論地域協議会の方も入っておられた方が内容もよく把握されますので何人かに入ってもらって、5回になるかは判りませんが、少し密な話をグループを設けてやってもらおうということになれば、去年も沼田や本郷でもいろいろ掘り起こされてますから、そのような形でほかの地域の課題を発掘しながら議論を深めていくというのは可能ではないかなと考えます。資料4ではあらゆることを網羅的に話合わなければならないので、

かなり大変だと思います。去年の場合は2つ3つ選んでそこを重点的に話合うことでしたから、そこら辺の難しさが多分あって尚かつそこに優先順位があって重点プロジェクトなり、そうしたものを示さないと市側に提示したときに力をもった計画になり得ないので、そうしたことを今日皆さんからざっくばらんにご意見を伺いながら詰めた方がいいと思います。

茂木委員

今年の2月に配布された大仙市基本計画に基づいた資料は項目が膨大で、しかも総花的です。今日の説明では自治会からも意見を聞くということなので大変良いことだと思います。私は、地域協議会と一緒に支所の職員の意見も取り入れるべきでないかと感じました。大仙市の基本計画に基づいた振興計画を作るとすれば、地域協議会の委員だけでなく、自治会の意向も、職員の意向も、取り入れた方がいいものができるのではないかと感じます。

佐藤会長

前に配布された資料は、大仙市の基本計画を抜粋したものです。かといって他から出す資料がなかったことから出されたものだと思います。自分が考えるには、仙北地域で策定するに当たって、そのまま大仙市で計画したものに対して、この点はこうだとして出したら市と同じようになってしまうだろうし、ある程度出来る部分と出来ない部分が明確にあります。そういう部分は排除してしまっ、とりあえず出来る部分からやっていった方がいいのではないのでしょうか。

例えば、大仙市のみんなが利益を受けるものについては特段我々の地域協議会で検討する必要もないだろうし、この地域に限ったことについて協議して計画を立てていく方法であれば、少し気が楽かなあとありますが、いかがでしょう。

熊谷副会長

事務局としては、職員の参加についての可能性としては、どうでしょうか。

皆川主幹

昨年、湯沢市を視察した折に、これからは職員の意識改革も大事だと研修してきましたので、相談したいと思います。

熊谷副会長

そうなると私は進藤委員の意見に賛成です。この項目を全部網羅するのは至難の業ですので、ある程度人数があればグループ毎に分けて7節全部を検討もできると思います。

佐藤会長

ワーキング部会を作って各テーマに取り組んでいただいて、その中のものを総合的に1つのものにするというふうなことも、1つの方法だと思います。

	<p>とりあえずワーキング部会を作って行くかについて話合っていたきたいと思います。</p>
黒澤委員	<p>項目を絞って行なったらいいと思います。それとこの地域は史跡の町ということで標榜しているし、国指定の史跡が2つもあるので、そういう特色を活かしたものを取り上げたらいいと思います。</p>
鈴木助教	<p>ワーキング部会には一般の方も入るのですか。</p>
佐藤会長	<p>それについても協議が必要です。</p>
鈴木助教	<p>協議会のワーキング部会で取捨選択するのが役割になるということですか。</p>
熊谷参事	<p>協議会のワーキング部会に住民が入っているいろいろな評価してもらい、その中で決めていくということですか。</p>
佐藤会長	<p>今、先生が言っているのは、そういうことですが、私がさっき言ったワーキング部会は協議会委員で部会を作って検討していくということで、その中に行政の職員を貼り付けていくということです。</p>
熊谷参事	<p>私共としましては、意見を聴くのはいいのですが、取りまとめする段階においても住民の皆さんに参加してもらおうという形と、意見は聴くが取りまとめは協議会で決めていくという形があり、どのような形でもよろしいのですが、事務局としては委員の皆さんで決めていただくのが一番良いのではないかと考えています。何故、それがいいのかと言いますと、大勢で意見を出し合うのはいいのですが取りまとめまで全員で行うとまとめきれないのではないかと考えています。ですから意見は聴きますが、結果としての取りまとめについての判断は委員の方々が行うというのが良いと考えます。</p>
佐藤会長	<p>それについては、資料5で取りまとめたものを地域協議会へということがありますので、この時点で住民の皆さんの意見が反映されることになると思います。ある程度、委員が主導的な役割を持って進めていければ、煩雑にならない面があると思います。</p>
池田（佐）委員	<p>大多数の意見が満たされれば大変良いということですが、人数が多ければ多いほどまとまりにくい訳です。やってみなければ判りませんが、大体同じような話の方向になるのではないかと予想されます。ですから、支所の職員も一緒に加わってやれるというのであれば委員の</p>

人でグループに分かれて専門的な話し合いをした方がかえって良いのではないかと思います。

熊谷参事

職員の参加については管理職に協力してもらえenと思います。

佐藤会長

進め方の形については、これで決めたいと思います。

次に、日程についてお願いしますが、講座をやった後にワーキング部会を行うとういうことになりますか。

熊谷参事

仙北地域の課題については、昨年行いました講座での課題、また自治会へのアンケートからも課題が出ております。そして、今年度改めて自治会に対し振興計画に対する要望等がないか呼びかけて集約したいと考えています。ほかに委員の皆さんからも課題を出していただき、講座に参加された皆さんからも出していただくようにしたいと考えています。集約した意見・要望は、この7つの柱のどれかに係わってくると考えられますので、それらを整理して資料として提出します。結果として講座の後に協議会の検討が入る形になるかと思います。

佐藤会長

あと、日程について決める必要があるかと思いますが、資料の配付はいつ頃になりますか。

熊谷参事

6月の中旬を予定しています。

池田（佐）委員

資料配付後は早めに第1回目を開催した方が良いと思います。

佐藤会長

グループに分ける人選を行いたいと思いますので、希望のグループを指名してください。

熊谷参事

グループに分けるとしても、2つか3つが理想だと思いますので、7つの柱の項目分けを先にお願ひします。それに管理職をアドバイザーとして配置するようにします。

佐藤会長

地元出身の若い人達も入ってくればありがたいです。

鈴木助教

これは職員のいい機会であり、ここで学ぶことは非常に大きな知識になると思ひます。何人か若手を絞って入れた方が良いでしょう。

熊谷参事

お願いしてみます。

佐藤会長

いい人材育成の機会になると思ひます。ちなみに健やかに安心して

暮らせるまちづくりは、支所でいえば担当はどこになりますか。

熊谷参事

上から順に担当を言いますと、「安心して健やかに暮らせるまちづくり」が市民課、「未来を創り心豊かな人を育むまちづくり」は教育委員会分室、「生き活きと希望を持って活躍できるまちづくり」は農林振興課と地域振興課、「生活基盤が整ったまちづくり」が建設課、「環境と調和し快適で安全に暮らせるまちづくり」は市民課と建設課そして地域振興課、「仲間とふれあいともに活躍できるまちづくり」は地域振興課、そして一番下も地域振興課になります。

佐藤会長

これらの項目を3つにするとしたら、どのようになりますか。

進藤（勇）委員

例えば、安心して健やかから6番目まで各自2項目を希望するようにしたらどうでしょうか。

熊谷副会長

それより最初に3つに分けて、選んだらどうでしょうか。

池田（佐）委員

各課に関係した項目で3つに分けて、さらに委員がどれに入るか決めたらどうでしょうか。

千葉委員

私、脱線する話になるかもしれませんが、簡単に言うと、この計画を作って秋に市長さんがおいでになり、いろいろ意見交換をして21年度の予算に取り入れるものは取り入れるというスケジュールですね。そして、同時に自治会連合会をも組織するために取組んでいくということですか。

熊谷参事

いま千葉さんから言われた連合会を立ち上げる場合についての役割について何と捉えるかが重要だという訳ですが、今回立ち上げることにについては十分説明して理解いただきたいと考えております。

千葉委員

協働のまちづくりということですので、地域の連合会が行政と手を結んで行動の主体になるという展望なりを持っていかないと、空振りの計画になってしまうのではないかと。

熊谷参事

一番心配しているのは、自治会の連合会にあなた達が先になってやってくださいと言った場合、自治会で了解してくれればいいのですが、なかなか難しい点があります。これも強制的に作ってくださいということではありませんし、合併になった時点において将来的に仙北地域をみた場合、地域の重要性は非常に大きくなっていくのではないかと感じてます。行政がどこまでサービスできるかは、このように大きくな

ってしまうと、これまではチラシ1枚渡すにしても該当者に直接渡していたものが公報1枚で済まされてしまうような状態になってきています。現実問題サービスの低下ということに繋がっている部分もございます。そうしたことを考えると、将来的には合併した中で支所の役割もかなり縮小されていく部分があるのではないかと感じてきております。そうした場合に地域の自治会組織の役割というのは大きいのではないかとということで、私は自治会組織の立ち上げは必要でないかと提案してまいりたいと思っております。市側からの連絡したいこと、またお願いしたいこと、覚えていただきたいこと等々についての連絡窓口として、また地域からの意見などが多々あろうかと思っておりますので、それらをすべて聞けるわけではありませんが、自治会連合組織からの要望等についてお聴きしながら参考にしていきたいと考えます。そういう組織の立ち上げを考えているわけで、自治会に対して強制してやるという組織の位置づけではありません。

佐藤会長

これから地域が大きくなっていくと最終的に頼るのは自分たちが住んでいる周りの地域になってきます。阪神大震災のときでも家をつぶされた人が誰から助けてもらったかということ、行政から助けてもらったわけでもなく、消防署から助けてもらったわけでもなく、結局近くに住んでいる人が助けたのです。最終的には、自分たちのことは住民自身が守っていかなければならないと思っています。話が飛躍しますが、昔の西部劇の時代ではみんなからお金を集めて保安官を雇い入れたりして自分たちの町の安全を確保したり、イギリスでも田園風景がきれいだといいいながらも、それは1軒1軒の家の前の庭を少しずつ整備して行って軒並みきれいになっていったものを何百年後かに見れば良く整備されているということになって、そういうことがそもそも地域集落の始まりだったわけです。いままで行政に頼り過ぎていたきらいがある我々です。これから行政の力にも期待が出来ないようになることが目に見えているから、いま小さな集落単位で活動しようとするのは、ある意味でのNPOだと思います。いまの私達の集落は地域を良くしていく、あるいは地域で団結していくことが今後の担うべきことだと思います。今、熊谷参事が言ったように、そのような方向に進むんだらうとも思います。地域計画を策定していくことと並行して各自治会をある程度まとめて、自治会の長から意見を吸えるようなシステムを合わせて構築していかないと、いつまで経っても1つになっていかない、あるいは各集落によって格差が出てくる恐れがあります。

熊谷参事

自治会からすれば、市側からの情報を利用して自分たちでどのような組織を作っていくかを考えてもらえればよいと思います。市側から積極的に、これをやれ、あれをやれ、ということはないのですが、今

は賛同いただける自治会を持って連合会を組織したいということで進めていきたいと考えています。

熊谷副会長

それだからこそ、私はこの会に自治会のメンバーを入れることが、よりベターでないかと考えたのです。例えば、自治会の会長50何人かいるの中からピックアップして、その人達が入って研修することによって、市側で招集するのではなく自分たちの自治会はこうしていかなければならないとあって、自治会の全員を招集するような形にまでもっていったら本当に理想的だと思います。

熊谷参事

これまで地域づくりの研修会なり講座をやったのですが、結果として参加してくれるのは限られた自治会でしかないということです。だとすれば、連合会組織を作って、その組織の中で勉強会を開くのも一つの方法でないかと考えています。そして、将来的には、その自治会でやれるのがベストですが、いま行政として、あれをやれ、これをやれといっても、なかなかうまく進まない部分があるので長い目で進めていかなければならないと考えています。

進藤（勇）委員

身近な一つの例ですが、この会議の持ち方は非常におもしろいと思っています。議案が出る、説明する、ご意見ございませんか、誰も手を挙げません。議長は、誰それさんありませんかと聞きます。そうして述べられる人からは、いい意見が聞けるんです。意見を持っているんです。私達は前もって会議資料をいただいているので中を見ていれば、聞きたいことはあるはずです。これを自治会の方に当てはめてみれば、市に対する意見がないかと聞いても回答はゼロだと何回も言われました。そうだとすれば、本当はすばらしい意見を持っている方がいるはずなんです。自治会の意見を引き出せるような方法というか、何か私達の議長のようにやってみれば、すばらしい自治会の意見を聞く方法があるのではないかと思います。

佐藤会長

日本人は昔からあまり話をしないことが美德だとされてきていて、あらたまった会議での意見は出ません。むしろ会議が終わってから自分の意見はこうだとか、ああだとかというのが多いので、なかなか個人の悪い面が出ているような気がします。いずれ皆さんから意見を集約するようにしなければならぬとは思いますが、基本的なことに入ってしまったが、皆さんも方向性はある程度判ってくれたと思いますので、さっきの話に戻りますが、グループ分けしてやるということではいかがですか。

千葉委員

私は、その点は賛成です。ただ、自分の弱い項目に入るようにした

方がいいと思います。そうでないと、ある項目だけが突出するような気がします。私の頭の中にあるのは、行政と地域との協働だということで、ポイントは職員が不足になることです。そのところを地域住民がカバーしろということになるわけです。自分は、ここがベテランだということになれば、逆から言えば、地域協議会とか自治会というよりはNPOの方へ行ってもらった方が良いわけで、本当は18人の皆さんが弱いところの部分を勉強してもらえばいいと思います。

佐藤会長

いまの場合、市役所の職員も入ってのことで専門的なことを検討することも考えられるので、意見として聞いておきます。

戸澤委員

どの分野を何にするか7つの項目を3つに分けてからメンバーを決めていった方がいいのでは。

佐藤会長

これを3つに分けるとすれば、どのようにしたらいいですか。

佐藤支所長

「安心して健やかに暮らせるまちづくり」と「未来を創り心豊かな人を育むまちづくり」が1つ、「生き活きと希望を持って活躍できるまちづくり」と「生活の基盤が整ったまちづくり」そして「環境と調和し快適で安全に暮らせるまちづくり」が1つ、あと「仲間とふれあいともに活躍できるまちづくり」と「計画推進にあたって」が1つとなるようです。

佐藤会長

それでは、いま言った3つに分けることとします。それでは振り分けになります。

熊谷副会長

私は、ワークショップの形としては各グループで検討したことをそれぞれ発表させて、他のグループの人の意見もまた取り入れるべきだと思います。18人が自分が入っているグループだけでなく、関与していなかったグループにプレゼンさせて意見を述べていくということになると思うので、自分の得意とする分野でもいいのではないですか。

鈴木助教

分科会と全体会ということになりますので、全体会で調整を図ることになります。

佐藤会長

希望をとりますので挙手願います。

※結果

- Aグループ 黒澤委員、小松田委員、進藤（勇）委員、熊谷副会長、池田（佐）委員
- Bグループ 池田（武）委員、茂木委員、戸澤委員、竹村委員

Cグループ 小林委員、佐藤会長、佐々木委員、千葉委員
欠席した委員については、事務局が連絡をとって調整する。

鈴木助教

協働というのは、全部に絡むので、それぞれで協働とか行財政運営とかはAでもBでも考えられたらいいと思います。やはり、メリハリをつけた方がいいので、言葉は別として重点事業とか、優先事業みたいなもの、ポイントが判るようなタイムスケジュールとか、誰がやるとか、いつまでやるとかは丁寧に検討された方が受け取った側は判断しやすいと思います。そこら辺は最後の発表会でも意見交換されると思いますので、そのことを1年間のスケジュールの中で見通しながら検討いただきたいと思います。

佐藤会長

いま、先生が言ったように、重点事業というのは先ほど黒澤委員が言ったような史跡の部分を中心にクローズアップして事業としていくかということで優先あるいは重点事業の中に入ると思います。まず、タイムスケジュールを区切って、ある程度小さな目標を立てて、1つずつクリアしていくようにしたいと思います。

この件は、これで閉めてもよろしいですか。

各 委 員

【全員異議無し】

佐藤会長

その他について、熊谷参事からお願いします。

熊谷参事

前回ごみの問題について、お話をさせていただきました。その後、市民課とも協議しまして、まだ確定ではありませんが、対応方法としての市の考え方は、地元の方々などが迷惑していることは判りますので、片付けるにあたって地元の方々の協力が得られるかということが1つ、それから本人の承諾を得られるかというのが1つです。その2つがクリアした場合には、地域枠予算の中で機材の借入れなり処分料なりを対応していく予定です。ただ、それもタイミングがございしますので、良いといった時にやらないと話を長引かせていると話がまたこじれることもありますので、もし早急にかかるといった場合は実施させていただくこともあろうかと思っておりますので、よろしくをお願いします。

佐藤会長

その件については、いま皆さんから了解をいただければ、いつでもタイミング的に対応ができるかと思っております。このことについて、ご意見を伺います。

池田（佐）委員

努力されていることに敬意を表します。

佐藤会長	特に反対の方いらっしゃいますか。
各 委 員	【全員異議無し】
佐藤会長	よろしいですね。もしタイミングが合いましたら、よろしくお願 いします。 ほかにありますか。
池田（佐）委員	資料2が渡っていますが、何かお話はありますか。
熊谷参事	これは3月に市長に対する要望を取りまとめたときに遅れて後から 提出されたものです。このあと振興計画の策定でも何かの参考になる だろうということで参考資料として配布したものです。
皆川主幹	鈴木先生からも参考資料がありますので、配布します。
鈴木助教	ここで注目していただきたいのは、活動の方針を立てることだけで はなくて、いろいろ地域の課題を掘り起こして方針を立て、それを実 践して、こういう形で評価をしていることです。何が評価されてきて いるかが見えてきて、そういったものが地域と行政の協働の在り方と か、地域の自立というような視点に繋がってくるかと思えます。これ は、先ほどの資料2の内容と似ているところがあって、本郷と沼田の 活動もそうですが、やはり地域のニーズをちゃんと掘り起こして活動 を起こしていくという原点がそこにあります。そういう効果を冊子と して取りまとめて伝えています。31ページ目ぐらいになると、住民 自治協議会を作っていますが、運営委員会のほかに実行委員会とい うのを作って意欲ある人を集めてやっていることが書いてあります。運 営委員会は代表者が民主的に選ばれて、いろいろな意志決定をしてい く、そういうような役割分担はこれから自治会連合組織を作っていく 話とか、先ほどの資料の内容を詰めていたり、C班の協働の役割の 検討を進めていくうえで、結構参考になるのではないかとということで、 今回資料として出させてもらいました。例えば、自治会で限界がある ということが、この資料で相当書かれています。やはり高齢化が進ん で皆さんが能力的に作業が出来ない状況になってきているときに、3 1ページにあるように自治会と各種団体をつなげていく、こうした縦 と横の組織をつなげて総合的なまちづくりを作っていくことが協働だ というようになっていますので、困っている地域とそういう困ってい ることを解決できる能力を持った組織なり地域なりにタッグを組ませ ていくことも戦略としてはあります。伊賀市はかなり戦略的にやられ ているのが有名なところですよ。ひとつ参考にさせていただければと思

佐藤会長

ます。

ありがとうございました。
ほかになれば、これで会議を閉じます。

【8時50分閉会】

この会議録の記載が真正であることを保証するためここに署名、捺印する。

仙北地域協議会署名委員

仙北地域協議会署名委員
